

主な感染症一覧

発症した場合、登園には治癒証明書（西東京市内の医療機関にて無料で発行）が必要です。

病名	感染しやすい期間	登園のめやす
麻疹（はしか）	発症1日前から発しん出現後4日間まで	解熱した後3日を経過するまで
インフルエンザ	発症24時間前から後3日間が最も多く、通常7日以内に減る	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後3日を経過するまで
風しん（3日はしか）	発しん出現の数日前から後5日間くらい	発しんが消失するまで
水痘（みずぼうそう）	発しん出現の2日前から痂皮形成まで	すべての発しんが痂皮化するまで
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	発症2日前から耳下腺腫脹後5日	耳下腺、顎下腺、または舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
結核	肺結核の場合、喀痰の塗布検査が陽性の間	症状により、園医その他の医師において、感染のおそれがないと認められるまで
咽頭結膜熱（プール熱）	発熱・充血など症状が出現した数日間	主要症状が消退した後2日を経過するまで
流行性角結膜炎（はやり目）	充血・眼脂など症状が出現した数日間	結膜炎の症状が消失し、医師により感染のおそれがないと認められるまで
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
腸管出血性大腸菌感染症（O157・O26・O111等）	便の中に菌が排泄されている間	症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によっていずれも菌陰性が確認されたもの
髄膜炎菌性髄膜炎（Hib感染症）		医師により感染のおそれがないと認められるまで
急性出血性結膜炎（アボロ病）	ウイルスが呼吸器から1～2週間、便から数週間～数か月排出される	医師により感染のおそれがないと認められるまで
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1～2日間	抗菌薬内服後24～48時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌治療薬を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
感染性胃腸炎（ノロ・ロタ・アデノ等）	症状のある間と、症状消失後1週間（量は減少していくが、数週間ウイルスを排泄する）	嘔吐・下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間（便の中に1か月程度ウイルスを排泄する）	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
RSウイルス感染症	呼吸器症状のあるとき	呼吸症状が消失し、全身状態がよいこと
帯状疱疹	水疱を形成しているとき	すべての発しんが、痂皮化していること
突発性発しん		解熱し、機嫌がよく、全身状態がよいこと
手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅斑（リンゴ病）	発しん出現前の1週間	全身状態がよいこと
伝染性膿痂しん（とびひ）	湿潤な発しんがある間	皮しんが乾燥しているか、湿潤部位が覆える程度のものであること（皮しん・痂皮が湿潤している間は接触による感染力が認められる） ※頭皮・顔の場合のみ治癒証明が必要です